

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



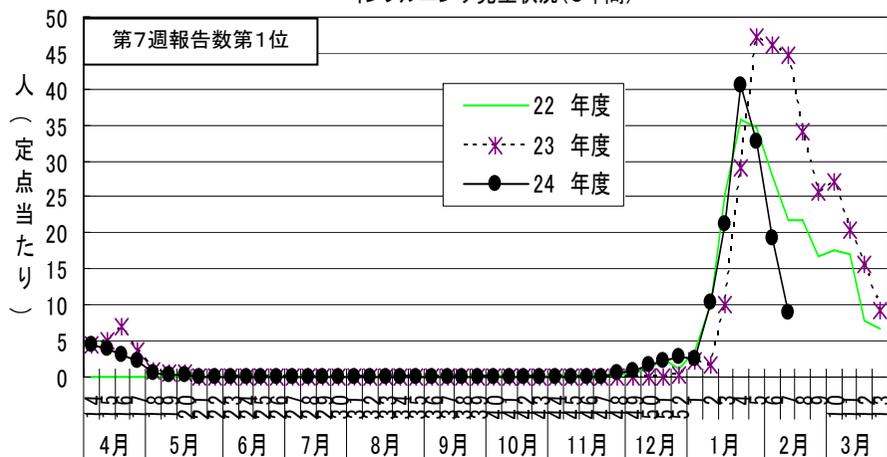
KAWASAKI CITY



平成25年2月11日（月）～2月17日（日）〔平成25年第7週〕の感染症発生状況

第7週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 インフルエンザは定点当たり8.94人と前週（19.20）より患者報告数は大幅に減少し、例年より低いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎は定点当たり7.18人と前週（7.76）より患者報告数はやや減少し、例年より低いレベルで推移しています。
 風しんの届出が3件あり、平成24年6月以降、例年を大きく超える流行が続いています。なお、成人男性の罹患率が高くなっていますので、同居家族等に妊婦がいる場合は、特に注意が必要です。

インフルエンザ発生状況(3年間)

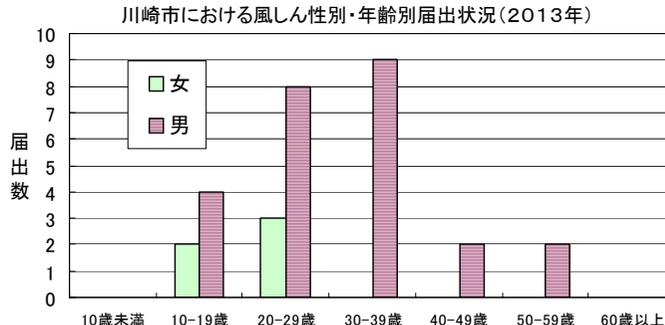


例年を超える風しんの流行！！～成人男性に高い罹患率～

昨年6月以降、全国的に風しんの患者届出数が非常に多くなっており、市内においても例年を大きく超えるペースで患者が発生しています(左下グラフ参照)。妊娠初期の女性がかかると、胎児に「先天性風しん症候群」を引き起こすことがあるため、妊娠の可能性のある方は特に注意してください。

右側のグラフのとおり、市内の届出状況では、20～30代の男性の罹患率が非常に高くなっています。

風しんに関する正しい知識を持ち、対策等を徹底しましょう。



風しんとは？

風しんの潜伏期間は約2～3週間で、発疹、発熱、リンパ節の腫れなどの症状が認められるウイルス性疾患です。

風しんに対する特異的治療法はありませんので、予防接種を受けることが最も重要です。

先天性風しん症候群とは・・・

妊娠初期の女性が風しんにかかると、胎児が風しんウイルスに感染し、難聴、心疾患、白内障などの障害を持った赤ちゃんが生まれる可能性があります。これらの障害を先天性風しん症候群といいます。そのため、妊娠可能年齢までに予防接種を必ず受けましょう。



川崎市における月別風しん届出数(平成25年2月19日までの集計)

